

ESSEの 気ままに エリアレポート

～札幌市 福住～



緑豊かな 福の住む街

歴史 「福住」の由来

明治4年に岩手県民が月寒周辺に入植したことから開墾が始まり、当初は「六軒村」と呼ばれていました。開拓が進むに連れ現在の豊平区は豊平村・月寒村・平岸村として開村し、福住中央通りが開通したことで福住地区は「月寒村西通り」となりました。その後3村の合併により豊平村の一部である「西通」となりましたが昭和19年の字名改正により現在に至る「福住」の地名に変わりました。

福住の由来については明治26年より現存している福住寺(ふくじゅうじ)にあやかかったとも、幸「福」が「住」む土地として祈りが込められたとも言われています。

自然 うらうちない川

羊ヶ丘展望台から札幌ドームを通り、福住を流れる約4.6kmの河川で、アイヌ語の「ウライ・ウシ・ナイ(魚を取る大きな仕掛けが多い川)」が由来となっています。

この川を囲んで桜の樹や親水広場が整備された「福住小川公園」は、豊かな自然とふれあえるスポットとなり、また桜の名所としても親しまれています。

スポーツ 札幌ドーム

2002年のFIFAワールドカップ開催を機にオープンした日本最北の全天候型ドームは、現在も1年を通じて様々なイベントが行われ札幌の文化の発信基地となっています。最大収容人数は5万人を超え、展望台にトレーニングルーム、レストランやグッズショップと様々な施設が揃っています。

開業当初より「北海道コンサドーレ札幌」のホームスタジアムとなった後、「北海道日本ハムファイターズ」を迎え入れ、国内で初めてプロサッカーとプロ野球チームの本拠地となったスタジアムです。その鍵は、天然芝と人工芝を場面転換する世界初のホヴァリングサッカーステージです。



街並 自然豊かな住宅地

以前は畑と牧草地が広がっていたこの地は、現在も農業専門学校や農業試験場、羊ヶ丘展望台として農地の形を残しています。平成6年に地下鉄東豊線「福住駅」が開通し、交通の便が豊かになってからは大小のマンションが立ち並び、落ち着きある住宅街としての顔も強くなりました。

またこの地域には、明治以来の寺社や教会が現存しており、趣深い建築の数々から歴史ある街並も感じられます。